

岩手教区報

第356号
 立教185年8月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



祭事部発足の原点を目指して

主事・祭事部長 鈴木眞理

本年4月より、鈴木教区長のもと教区が新しい体制となり、平成26年に発足した教区祭事部は、今期で4期目の活動に入りました。

祭事部発足の原点は、教区管内の葬儀の底上げを目指してのことでした。そうした上から前期までの8年間は、教区管内の葬儀充実の一助となるよう、重服の着付けをはじめ、みたまうつし、告別式などの祭儀を、ひと通りつとめさせていただきました。受講された方々からは、「一回受講した程度では、なかなか身につかない」というお話も時折耳にいたします。そのような意見も考慮して今年度は、葬儀の原点ともいえるべき、「みたまうつし」の祭儀について、学んで参ります。

「みたまうつし」とは、故人の身体(肉体)から分離した靈魂(みたまさま)を、靈璽(霊代、みたましろ)にお遷りいただき、そして新しく設けた、仮の靈舎にお遷し申し上げるといいます。葬儀において最も大切な儀式の一つに数えられます。このようにすることに よって、「みたまさま」は、親神様の懐深くしっかりと抱きしめられます。

ある靈感の強い人が、「みたまうつし」に参列された



「領収書の信仰」

信仰とは神様の言われる事、つまり神様の思召しを教えとして素直に聞き分け、心底受け入れ実践する事により助けて頂く道である。神様のみ教えは、間違いのない絶対の真理として信じ切る中に、救済の道が開けて来るのである。

ある人は、「信仰とは領収書の信仰をすることだ」と述べている。つまり、成つて来る日々の出来事を神様の思召しと受け取る領収の信仰態度が肝心というのではないだろうか。しかし、人はややもすると、神様と向き合う時、「ああして欲しい、こうもして欲しい」という欲求、願望を聞いて貰いたい心、つまり常に、神様に請求する心が信仰心であると考えがちである。

しかるに誠の信心とは、成つて来る事柄が、わが思いであろうとなかろうと、不

都合でも恵み頂く守護として感謝、お礼の領収の心に自分を変えていく事ではないか。

さて、私はおらばの大学を卒業後、天理教校本科を志望していたが、大教会長様のお許しを頂けなかった。それもそのはず、当時、大教会は神殿建築の最中。机で勉強するより神殿普請に伏せ込み、徳積みさせよとの神意だったと思う。直ちに大教会に住み込み、青年としてひのきしん一筋に専念することになった。大教会に入るや様々な作業の一つが肥し汲みだった。生まれて初めて担ぐ天秤棒を肩に、大学を出て何故こんなことまでしなければならぬのかと喜べない日もあった。しかし、仕事を命じられた役員先生は、私を成人させたいがために、何事も素直に受け止め、低い心になる勉強をさせて下さったのだと思案させて頂いたら、不思議と勇めるようになった。

また、肥え汲みだろうが仕事に貴賤の差別はない。普請中、大勢のひのきしん者が必要とする肥え汲みの仕事も、大切な御用と思えば決して雑用ではない。逆にどんな高尚な御用でも、雑な心でつとめたら雑用となる事である。同じ仕事でも不平不満で勤めてならない。古人の言葉に「泥沼の中においても、頑張つてそこで足踏みが続けていたら、いつの間にか

固まっていくのである。それが自分をくくっていく足場になる」とある。教祖百四十年祭に向けて、しっかりと足場づくりに邁進しよう。

行事延期のお知らせ

○7月17日(日)に予定されていた三陸支部「みおしえ学習会」は、延期(日程未定)となりました。

○7月31日(日)に予定されていた「婦人会総会」は、延期(日程未定)となりました。

「みおしえ学習会」開催予定(8月分)

花巻 21日(日)花巻分教会 13時30分
 (フアシリテーター 大谷 史彦)

行事予定 【8月分】

- 1日 役員会(10時)
- 11日 第43回夏の勉強会(12日)
- 13日 学生担当委員会例会(19時30分)
- 20日 青年会例会(19時)
- 21日 女子青年例会(10時)
- 28日 ひのきしんスクール(10時)
- 30日 少年会例会(12時)
- 31日 主事会(15時)



講師は当集いの会員でもある、御所野縄文博物館々長の高田和徳氏(東南分教会所属)。高田氏は、御所野遺跡の興味深い話を分かりやすく話され、その後の質疑にも快く応えて下さった。

続いて行われた総会では、規

道の教職員の集いでは、去る7月3日(日)、教務支庁を会場に、「第47回総会」を開催し、講演会参加者4人を含む13人が参加した。

本年度より、教区管轄の会という新たな形となり、総会内容も一新。これまで総会の中で行われていた講話を、会員以外の方々にも聴講頂きたいとの思いから、今回は総会開催の前に、講演会として実施した。

「第47回総会」開催さる

道の教職員の集い

道の教職員の集いでは、来る8月11日、12日の両日、教務支庁を会場に、「第43回夏の勉強会」を開催します。

対象は小学生と中学生です。夏休みの宿題をはじめ、1学期までの基礎学力の向上も望めます。参加者との仲間作りもできる楽しい行事です。詳細はチラシをご覧ください。

問い合わせ・申し込みは左記迄。
連絡先 019(647)1201
(門盛分・門間道明)

「第43回夏の勉強会」 【8月11日・12日】



約の改定が審議され、今後県外の教職員にも門戸を広げ、道の後継者育成を明確する内容に改定された。

当集いの主旨に賛同して下さい方で、若い世代をはじめ多くの方々の入会をお願い致します。

本日、天理教岩手教区から2名の方が当支部へお越しいただき、活動資金を贈呈いただきました。

毎年4月29日は天理教のひのきしんデーという神様への感謝の日で、献血や草取り等の奉仕活動を実施しているのですが、今年は5月に献血奉仕と共に地域でバザーを実施し、その売上金を当支部の活動資金としてご寄付いただきました。

天理教岩手教区様は本日の活動資金へのご協力の他、長年にわたり献血のご協力もいただいております、重ねてお礼申し上げます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

認知症を患う高齢者が今後ますます増加することが予測され、3年後には国内で約700万人に達すると見込まれています。認知症に対する関心は高まりを見せていますが、まだ十分に理解されているとはいえません。

本講座では、地域や教会で高齢者本人や家族を支えていくために、認知症の正しい知識と対応を考え、その家族を支えるための公的な社会資源を学びます。

ぜひご受講下さい。

日 時 8月28日 10時～15時20分
会 場 岩手教務支庁
募集人員 ようばく30人
受講費 千円(昼食代含む)
内 容 「認知症サポーター養成講座」「家族を支える社会資源を知ろう」「高齢者支援のおたすけの現場から」など

※感染症の予防にご協力下さい。中止、延期になる場合もあります。

「ひのきしんスクール」 高齢者支援【8月28日】



厚生部



婦人会

「後継者鳴物勉強会」開催さる



教区婦人会では、去る6月25日(土)、教務支庁を会場に、「後継者鳴物勉強会」を開催し、24人が参加した。真夏を思わせるような暑さの中、久しぶりに集まっの行事となった本勉強会では、女鳴物(三曲)を学ばせて頂いた。

開会にあたり鈴木教区主任が挨拶に立ち、続いて3人の講師を紹介した。次に広間において、三曲の基礎である糸の張り方から調弦までを教わり、引き続き琴、三味線、胡弓の部屋に分かれ、それぞれの講師より弾き方を教えて頂いた。

最後に鈴木主任の拍子木に合わせて、よろづよ八首を全員でつとめて、解散となった。普段、女鳴物を習得する機会が少

ない中、基礎から学ぶことができた良い勉強会となった。

なお、鳴物の講師は、琴・崎山照枝(梅乃原)、三味線・佐野真知(吉里吉里)、胡弓・滝浦百合子(陵寶)の3人。

この度、日本赤十字社岩手県支部に、先般の「献血ひのきしん」の収益金5万円を寄付させて頂いた。高橋邦和主事と小笠原敦子委員長が日本赤十字社岩手県支部を訪れた時の様子を、同社のインスタグラムに掲載して下さいましたので、その一部を紹介致します。



献血推進委員会

日本赤十字社へ寄付



後継者鳴物勉強会



Instagramに掲載された写真